

## 平成26年度 第43回 かなえ医薬振興財団 助成金公募を開始しました！

「かなえ医薬振興財団」は今年 42 回目を迎える研究助成金及び海外留学助成金の公募を開始しました。1970年に設立された当財団は、生命科学分野の斬新な研究の推進を図り、医学・薬学の進歩、発展ならびに国民の医療および保健に貢献することを目的としています。これまで43年にわたり、総勢1,510名の若手研究者を支援しています。

募集期間：平成26年6月1日～7月31日（締切）

助成種類： 1. 研究助成金 総額 4,000 万円（40 件 100 万円/件）  
2. 海外留学助成金 総額 1,500 万円（15 件 100 万円/件）  
3. アジア・オセアニア交流研究助成金 総額 500 万円（5 件 100 万円/件）

### 1. 研究助成金 2. 海外留学助成金：

応募資格：40歳以下（海外留学助成は35歳以下）の生命科学分野の研究者

対象領域：研究助成金／海外留学助成金とも、臨床医学1～4、及び基礎医学1～2の全6領域。

■臨床医学1：神経／脳

■臨床医学2：循環器

■臨床医学3：消化器／代謝・内分泌

■臨床医学4：呼吸器／免疫・アレルギー／血液／その他

■基礎医学1：癌／免疫／ゲノム／感染

■基礎医学2：神経／薬理／薬物動態／その他

### 3. アジア・オセアニア交流研究助成金：

応募資格：45歳以下の生命科学分野の日本人研究者

対象領域：老年医学／再生医学／感染症／疫学／医療機器／漢方／その他

詳しい情報は財団ホームページをご覧ください。 → URL：<http://www.kanae-zaidan.com/>

## ◆理事からのメッセージ



### 研究のコンセプト

理事 祖父江 元（名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科 教授）

ここでいう研究のコンセプトとは、その研究がどのような方向を目指して、何を明らかにしようとしているのかという理念の部分と、どのような手法を用いてどのような論理展開を行おうとしているのかという研究のスタイルのような部分を含んだものです。研究者には1つ1つの論文から見える部分と、10年あるいはもっと長期に渡ってその人の研究の流れを見ることによって初めて見えてくる部分があり、ここでいうコンセプトはむしろ後者を指しています。私は研究を進めていく上で、このコンセプトという考え方は大変重要で、10年くらいかけて研究の流れを見ると、その人の本当

のオリジナリティーが見えてきて、「あー、この人はこういうことをやろうとしている人か」ということが分かりたりすることがあります。これはおそらく研究者の個性とか人柄のような部分も相当入っているのだと思いますし、研究の独創性のもとになっている部分ではないかと思えます。

私の個人的な経験では、このコンセプトは若い頃に培われて、おそらく大学院生くらいまでの間に受けた影響がイニシエーションのようになって意識下でその後の研究の方向を決めているようにも思います。私自身は、「神経変性疾患は癌とよく似ているのではないか」という、当時としては思いもよらない考え方に大学院生の頃に、あまり根拠なくとらわれた時期がありました。その後、私は神経変性の研究を続けてきていますが、これまでの研究の流れを振り返ってみると、自分ではそう思って意識した訳ではありませんが、癌研究の影響をかなり受けていることが明らかです。神経変性がいかに癌的であるかを無意識に示そうとしているようにも見えます。必ずしも研究のコンセプトといえるようなものではないかもしれませんが、若い時の考え方が、その後の研究のドライブフォースとして重要ということかもしれません。

若い頃に、自分は何を目指したいのか、何を解決したいのかというような疑問を積極的に問いかけてみることは、研究者としてやっていく上で、かなり重要なことかもしれません。

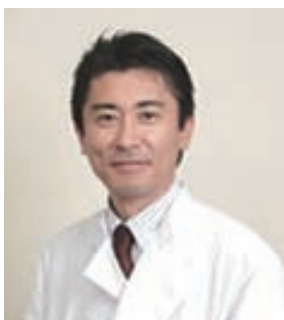
## ◆歴代受賞者からのメッセージ



### 第31回（平成14年度）研究助成金受賞者

金藤 秀明（川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 教授）

私は今から約12年前にかなえ財団より研究助成金を頂きました。ボストンのジョスリン糖尿病センターより帰国して間もない頃であり、とても嬉しくまた大変有難く感じましたことをよく覚えております。私は留学以前から、糖尿病状態で認められる膵β細胞機能障害（膵β細胞ブドウ糖毒性）の分子機構に関する研究を行っていましたが、かなえ財団からの助成を頂きましたことによって、そうした研究をさらに展開させることができました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。今後はこれらの基礎研究を発展させるとともに、こうした結果を臨床の場で役に立たせるようにしていきたいと思っております。私は本年2月より加来浩平先生の後任として川崎医科大学の糖尿病・代謝・内分泌内科学教室を担当させて頂いております。平成元年に大阪大学卒業後、大阪大学附属病院にて糖尿病をはじめとする代謝内分泌疾患の診療に携わってきましたが、今後は内科医として患者さんの病態を包括的に把握し、最も患者さんのためになる医療を行っていくとともに、糖尿病、代謝、内分泌疾患の病態を解明し、その結果を診療にも生かせるように努めていきたいと考えております。さらに、臨床面からみて重要と考えられる課題に関しては、臨床研究を進めていき学術的なメッセージを発信していきたいと考えております。最後になりましたが、かなえ医薬振興財団に深謝申し上げますとともに、貴財団の益々のご発展を祈念いたします。



### 第32回（平成15年度）研究助成金受賞者

南野 徹（新潟大学大学院医学研究科 循環器内科学 教授）

かなえ医薬振興財団には、「血管の老化研究」に関する提案で申請しサポートを頂きました。ここに改めて御礼を申し上げます。私はある日見つけた総説の記事を契機にテロメア・テロメラーゼと血管老化について研究しようと決心しました。これが偶然や運命と呼ばれるものなのか、私にはわかりません。ただし私は、「何事にも偶然はなく、運命にじっと身を任せるよりは、運命を切り開いていきたい」といつも思っています。研究開始当時（平成9年頃）のテロメア研究のほとんどが、がん細胞で行われており、血管生物学を専門にしている研究室では、血管の老化研究さえ行われていない状況でした。論文を投稿しても、非常に厳しい批判を受けることも少なくありませんでした。あるレビューアーからのコメントで、「どうしてテロメアやテロメラーゼを血管で研究する必要があるのか？」などといった身も蓋もないようなお返事を頂くばかりでした。しかし、その後も粘り強く研究を重ねて徐々に成果を得ることができ、現在に至っています。医学研究の分野は、基礎・臨床ともに無数に存在します。しかし、一つの分野、つまり自分が進むべき道において、自分をしっかり磨くことが大切だと感じています。また、運の巡り合わせを知り、不運にくじけないことも重要だと思います。ここまで、研究を継続できたのも多くの方々のおかげであると肝に銘じ、さらに意義のある研究を目指して頑張りたいと考えています。

### 第 35 回（平成 18 年度）研究助成金受賞者

矢部 一郎（北海道大学大学院医学研究科 神経内科学 准教授）

私は平成 18 年度第 35 回の研究助成を賜りました。今からもう 7 年ほど前になります。受賞後も一貫して北海道大学で診療、教育そして研究と精進して参りました。私は神経疾患の分子遺伝学を主な研究テーマとしておりまして、佐々木秀直教授のご指導の下、遺伝性脊髄小脳変性症における脊髄小脳変性症 6 型の頻度と創始者効果に関する研究や痙性対麻痺の遺伝子解析研究、脊髄小脳変性症 14 型の遺伝子座の決定と、我が国の脊髄小脳変性症 14 型の起因遺伝子の解明、ミトコンドリア病の臨床像および遺伝子変異の解析、封入体を伴う筋疾患の遺伝子解析研究などについて成果をあげて参りました。かなえ医薬振興財団におかれましては、これらの研究に対し多大な援助をいただいたことに感謝申し上げます。これからは、これらの分子遺伝学的研究の成果を少しでも臨床に還元すべく鋭意努力して参りたいと考えております。神経疾患には難治性疾患が多く、根治療法が無い現状ではありますが、研究は着実に発展しています。私が医師になったころには考えられなかった筋萎縮性側索硬化症などの神経難病に対しても臨床試験が行われる時代になっています。これらの臨床試験までの研究の道りを拝見させていただきますと、いずれも臨床と研究を両立してこなしてきた研究者のたゆまぬ努力の賜によるものです。今後も臨床にたずさわる研究者を支援する存在として、かなえ医薬振興財団がますます発展されることを心より祈念しております。



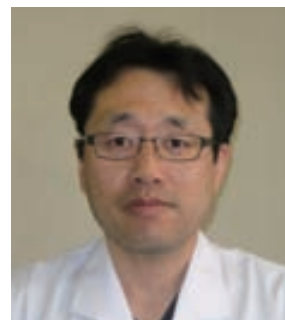
### ◆海外留学レポート



### 第 33 回（平成 16 年度）海外留学助成金受賞者

村時 基次（神戸大学大学院医学研究科腎泌尿器科学分野 講師）

私は 2004 年よりカナダのバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学の Martin Gleave 先生のラボに post-doc として留学し、アンチセンスオリゴヌクレオチド技術を応用した前立腺癌治療に関する基礎的研究を行いました。バンクーバーは住んでみたい都市のランキングで常にトップランクに入る都市です。その魅力は 100 万人都市でありながら、美しい四季のある自然環境が街中でも溢れていることにあります。私はラボのある General Hospital から徒歩数分の場所にアパートを借り研究を始めました。今振り返っても、持てる時間と気力の全てを研究に投じる環境としては最高の環境であったと思います。留学前のラボではチャレンジすることが困難であった分子標的治療における最先端の基礎的研究に、資金の心配無く没頭し、一定の成果を得たことは、まさに留学の醍醐味と言える経験でした。日本に帰国してからも、トランスレーショナルリサーチを念頭に置いた泌尿器科癌の基礎研究を進めることが出来たのも、Gleave 先生を始め多くの MD や PhD の先生方との連携無しには成し得ないことでした。今でも、年に数回の泌尿器科国際学会への参加は、旧交を温める良い機会になっているとともに、自らの研究を前進させる絶好の機会でもあります。このように、学術的にも人的交流の面においても非常に意義深い留学生生活を過ごせたのは、貴財団から海外留学助成金のサポートを頂いたためであります。この場を借りて御礼申し上げますとともに、貴財団の益々のご発展を心より祈念いたします。



## ◆平成 25 年度 事業報告

### 〈研究助成事業〉

平成 25 年度 第 42 回の助成事業は、6 月 1 日から 7 月 31 日の公募期間で、研究助成金 471 件、海外留学助成金 182 件、アジア・オセアニア交流研究助成金 20 件の応募がありました。10 月開催の選考委員会で厳正な選考が行われたのち、理事会の承認を受け平成 25 年度の助成金交付者が決定されました。研究助成金は、1 件あたり 100 万円又は 80 万円で 40 名に総計 3,500 万円、海外留学助成金は 1 件あたり 100 万円で 15 名に総計 1,500 万円、アジア・オセアニア交流研究助成金は 1 件あたり 200 万円で 5 名に総計 1,000 万円が贈呈されました。

### 〈業績集の発刊〉

平成 23 年度 第 40 回の研究助成金受賞者の研究報告書を纏めた「受賞者研究業績集 第 40 集」を作成しました。財団ホームページ上で公開しています。CD 版送付のご希望はお知らせ下さい。

該当の先生方にはご多忙のところ、貴重な時間を割いてご協力いただき深く感謝申し上げます。

## ◆財団役員・評議員

2014 年 4 月現在（五十音順敬称略）

### ■役員

|      |       |                          |
|------|-------|--------------------------|
| 理事長  | 生沼 齊  | サノフィ株式会社 常務執行役員          |
| 専務理事 | 島田 秀孝 | サノフィ株式会社 執行役員            |
| 理事   | 萩原 俊男 | 森ノ宮医療大学 学長               |
| 理事   | 春日 雅人 | (独) 国立国際医療研究センター 総長      |
| 理事   | 鎌谷 直之 | 株式会社ステージン 会長             |
| 理事   | 北 徹   | 神戸市立医療センター中央市民病院 院長      |
| 理事   | 小池 隆夫 | NTT 東日本札幌病院 院長           |
| 理事   | 清水 孝雄 | (独) 国立国際医療研究センター 理事・研究所長 |
| 理事   | 祖父江 元 | 名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科 教授   |
| 理事   | 幕内 雅敏 | 日本赤十字社医療センター 院長          |
| 理事   | 横田 尚久 | サノフィ株式会社 執行役員            |
| 監事   | 平井 昭光 | 第二東京弁護士会所属 弁護士           |
| 監事   | 那谷 宗輝 | サノフィ株式会社 執行役員            |

### ■評議員

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 岡野 栄之 | 慶應義塾大学医学部 生理学 教授                 |
| 島本 和明 | 札幌医科大学 学長                        |
| 杉山 雄一 | (独) 理化学研究所イノベーション推進センター 特別招聘研究員  |
| 鈴木 則宏 | 慶應義塾大学医学部 神経内科 教授                |
| 高井 義美 | 神戸大学大学院医学研究科 病態シグナル学部門 特命教授      |
| 寺本 明  | 東京労災病院 院長                        |
| 中尾 一和 | 京都大学大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター 教授 |
| 三品 昌美 | 立命館大学 総合科学技術研究機構 教授              |
| 北川 健二 | サノフィ株式会社 執行役員                    |
| 周東 祐仁 | サノフィ株式会社 執行役員                    |
| 道家 修  | サノフィ株式会社 執行役員                    |

## 発行

公益財団法人かなえ医薬振興財団 事務局  
東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ株式会社内  
Tel: 03-6301-3090 FAX: 03-6301-3094  
E-mail: kanae.zaidan@sanofi.com  
URL: <http://www.kanae-zaidan.com/>

### ■ご協力お願いします

このニュースレターは歴代受賞者及び応募関連領域の先生方を中心に約 2500 部発行しております。もし、送付先に変更がありましたら、登録情報を更新させていただきます。お手数ですが email 等でご連絡いただきますようお願い申し上げます。